学校づくり・地域づくりに関わるすべての皆さんへの情報紙

きょうどう No.2

R6. 6月
津山教育事務所 生涯学習課
義務教育支援課

「人づくりまちづくり研修会①」を開催しました！

令和６年６月１２日（水）に津山市中央公民館で、「人づくりまちづくり研修会①」を開催し、津山教育事務所管内の市町村の社会教育委員や社会教育行政職員から約７０名の参加がありました。研修会では講演を聞き、その後グループに分かれ、情報交換や協議を行いました。

「誰ひとり取り残さないまちづくり ～今、子ども達に求められている居場所とは～」

認定NPO法人
フリースペースたまりば
理事長　西野　博之 氏

講師の西野博之さんは、1980年代から不登校の児童生徒や高校を中退した若者の居場所づくりに関わって来られました。1998年から川崎市子ども権利条例調査研究委員会の世話人として条例策定に関わり、その具現化を目指した施設「川崎市子ども夢パーク」の開設運営に尽力。2003年にオープンしたパーク内に、川崎市の委託により公設民営の不登校の児童生徒の居場所を開設し、その代表を務められました。

現在も多様な子どもと関わりながら、様々な組織の委員や理事を務められています。

講演より

○子どもの時間が削られている。子どもの「やりたいこと」より大人の「やらせたいこと」が優先されている社会になっている。
○子どもがほっと安心できる居場所にするには、何もしないことを保障する。支援のための目標や評価はなく、居たいように居られる場所にする。子どもの自己肯定感を育む居場所をつくる。
○親にできることは、「クウ・ネル・ダス」に気を配ること。「食べられているか。寝れているか。うんちが出てるか。」これだけです。
○「大丈夫」という安心のタネをまこう。子どもは安心できる居場所の中で「大丈夫」に包まれると、自然と意欲がわいて自分の頭で考えて、自分の足で歩き出します。

参加者からの声

○不登校の子どもたちがこんなにも増えていることに驚きました。そうなってしまった社会を作ってしまったのも大人ですが、この現実を変えていけるのも大人なので子どもたちの気持ちを聞ける大人になりたいと思いました。

○大人の不安が子どもを追いつめている。大人の良かれは子どもの迷惑。「助けて。」が言えない子どもたちのSOSをキャッチでき、大丈夫のタネが届けられる大人でありたいと改めて感じました。

○一町民として、普段子どもたちと関わることが少ないので声をかけることも遠慮がちでしたが、勇気を出して声をかけようと思いました。

最近、「子ども食堂」や「プレーパーク」という言葉を聞くようになりましたが、家庭でも学校でもない、子どもの居場所づくりが注目されています。

西野さんのお話をうかがい、子どもの見方や関わり方を改めて考え、社会教育委員として、社会教育行政職員として、どんなことができるかを話し合う機会になりました。